

成願寺

令和三年 孟蘭盆会説教

若さと、悪さ

鶴見大学准教授 鈴木一馨



鶴見大学准教授 鈴木一馨先生

お暑うございます。一年待つてこの場でお話をさせていただきます。昨年はコロナのためにお盆の法要は僧侶のみでのお勤めでした。本来ですと私の話は昨年させていただく予定でしたが、その機会が延期になったため、一年前は季報（一二四号）に寄

季 報

130

令和3年12月18日
(2021年)

目 次

「若さと、悪さ」鈴木一馨……………1

中野区から幼稚園「ことりわくわくスベニャルデ」の報告……………7

山内短信……………8

納めの観音（年末の会）のお知らせ

十二月十八日（土）午後二時より、観音堂に於いて納めの観音様の縁日法要を執り行います。法要後は書院にてお話と軽食懇親会を予定。

リモート説教 山口県海潮寺 住職 木村延崇師
会 費 二五〇〇円

*軽食の注文数の確定と過密を避けるため、**予約**をお願いいたします。

除夜の鐘・参加者予約受付中（一撞き千円）

大晦日 夜十時より受付

十時半より来会者一同で読経―撞き出し

令和四年元旦 新年祈禱は僧侶のみで勤行

*予約の方優先ですが、当日も若干名受け付けます。

大般若祈禱会のお知らせ

令和四年一月九日（日）、午後一時より大般若祈禱会を開き、家内安全・身体健全・商売繁盛等を祈念します。どなたでも（檀家以外の方も）祈禱を受け付けます。願文を添えてお申し込みください。

発行 多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話 03-3372-2711
制作 地人館

稿させていただきました。その頃はまだコロナに慣れていなくて混乱していましたので、マスクをしていいのか、悪いのか。マスクはなんのためにするのか、そんなことを書かせていただきました。

それから一年が経ちまして、街中ではマスク姿がすっかり定着いたしました。それに慣れてはまいりましたが、今日のように暑い日ですと圧迫されている感じが辛いですね。ワクチンの接種も始まりましたが、皆さんは打たれましたか。四十代ぐらいの方でももう一回目は終わったという話も聞きますから、やはり地域によって違うなと感じているところがございます。

しかしながら今年は感染対策を充分にとつて、ご参列の皆様にもご協力をいただいた上でお盆の法要がこのあと勤められます。私もこうしてお話させていただくことができまして、大変ありがたく思っております。

先ほど午前中に成願寺様の御開山と歴代ご住職のご供養のお経が上がりました。その際に私の師父であります鈴木格禅の二十三回忌のお勤めもしていただきました。ご参列の皆さまの中にはご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、父は長年成願寺様

の参禅会の講師をさせていただき、また、このお盆法要の際のお話もさせていただいて大変お世話になりました。私は父の三回忌をしていただいた年から毎年お伺いするようになりましたが、例年のお盆ですと、本日よりももっとたくさんのお坊さんが全国から集まります。その中には、駒澤大学仏教学部に勤めておりました父の教え子の方もたくさんいらっしゃいます。生前の話を聞かせてくださるのです。大学の寮の寮監をしていた頃は、学生さんたちといろいろといたずらをしたそうで、家では知らない父親の姿を教えてください。そういう話を聞かせていただけるのは嬉しいものです。

父の二十三回忌に、父がしていたように、同じ場所、同じ日にこうして皆さまにお話をさせていただいて、息子として良い供養になるなど、お話の機会を与えてくださった方丈さまに感謝申し上げます。

善い、悪いの判断

今日はその方丈さまより、「せっかく大学に勤めているのだから、若い人の話をしてよ」と言われておりますので、私から見た学生さん方のお話を少しし

たいと思います。たぶん、日本全国の大学はどこも似たような状況ではないかと思います。

先日学生たちに、自分は大人だと思うか、子どもだと思うか、と質問をしました。自分は大人だ、という方に手を挙げたのは六十人ほどいた学生のうちの五、六人でした。自分は子どもだ、のほうに残りのほとんどが手を挙げました。これは困ったことです。今の学生は選挙権をもっているわけです。

学生たちを見ておりますと、確かに子どもっぽいところがあるわけです。何かと申しますと、やって良いことと、悪いことの区別がつかないことがあります。このご時世ですからマスクをつけてなるべく人とは離れて話さないといけません、大学は昨年はほとんどがリモートでしたので友達と会えなかった。昨年の一年生は特にかわいそうで、入学したとはいえ、大学自体に来られませんか、友達を作ることもできなかったわけです。ですから大学に通えるようになって、初めて会ったとか、久しぶりに会ったという学生ばかり。はじめは距離を保つていても、「わあ、久しぶりー！」なんて言いながらだんだん距離も近くなってしまう。至近距離でわいわい話す姿が、今年四月の学生たちの風景でした。

気持ちにはわからなくもないな、と思いながらも、私は立場上一意しなくてはなりません。「そこ、そこ、近すぎ。ソーシャル・ディスタンスだよ」なんて言うわけですが、学生たちは友達と会えた嬉しきで浮き足だつてしまう。

それがしばらくしてだんだん友達と過ごす時間が増えてまいりましたら、今度は慣れが出てきました。大学食堂、いわゆる学食に参りますと、登校してくる学生とリモートで講義を受ける学生とがおりますから、コロナ前と比べれば人数は少ない。学食の椅子の数も少なくなっている。それなのにわざわざ椅子を寄せて近づいておしゃべりしながら食べているのです。こうなりますと、四月に久しぶりに会えてつい嬉しくて、とは違つてまいります。慣れ、ですよ。ね。すっかり慣れてしまつて、そうして良いのか悪いのかの判断ができなくなっている。

若い、ということは、私も若いつもりではおりませんが、ある意味で若いということは、やって良い、悪いの判断がつきにくい時期なのかもしれません。

「悪」は若さの証

来年度の大河ドラマが三谷幸喜さん脚本の「鎌倉

殿の13人」に決まりました。鎌倉幕府の立役者であります源頼朝の参謀役・北條義時を主人公とした物語です。その義時が生きた平安時代の後半から鎌倉時代は、武士の名前に「悪源太」とか「悪四郎」とかいう名前が付けられていた記録がございます。わざわざ子どもに「悪」という字を付けた。現代日本においてもほんの二十年ほど前、息子に「悪魔」と名付けて届けを出した両親がいましたね。法務局にストップをかけられて裁判沙汰になりました。

現代は社会的に「善い」に対してが「悪」ということですが、義時の時代の「悪」は、「悪い」というのとは少しニュアンスが異なりまして、力強くとか、勇猛とか、強さを望む意味がございました。力強さや生命力を「悪」の字を名前に入れ込むことによって願ったのです。「悪」という言葉は、日本文化において力強さや生命力、つまりは若さということの証の一つであった。

社会的にそんなにひどい事でなければ、多少の悪さというのは子どもの頃や若いうちにやっておりた方が良いと思うのです。大人になってからですと、ちよつとしたことでも悪いことをしますと、刑法に引つかかることもございます。小さな子が間に合わ

ないと言つてかげで用を足すのは、「まあ仕方がない。でも次は早くに言いなさいね」と一言で済みます。子どもは子どもで「そうか、本当はいけないことなんだ」と心のどこかで感じるができる。でも同じことを大人がやりましたら軽犯罪法で捕まります。やつてはいけないわけです。

私が学生たちを見ていて思いますのは、叱られ慣れていない、ということ。つまり子どもの頃に悪さをしてこなかったか、もしくは悪いことをしても叱ってくれなかったかのどちらか、ということだと思います。

叱られて知る「悪」の線引き

私はもう一つ他の大学でも学生たちに講義をしております。そこではちょうど先日前期の講義を終えました。そうしますと学生たちから評価を受けられます。大学の教員は学生の学業に対して評価するわけですが、逆に教員は学生たちから講義内容を評価されてしまいます。

毎回講義では学生たちの顔を見て、「話が分かってるかな」と気を配りながら行うわけですが、なにせ無表情なのです。よほどなにか冗談の一つでも言わ

なければ学生たちはまったくの無表情。わかってい
るのか、わかっていないのかが計れないわけです。「講
義内容がわかりづらい」などと書かれてしまします
と、教員は反省をして改めなければなりません。

逆に「良かった」と書いてくれることもございま
す。私に対する評価のなかに意外なことが書かれて
いました。それが、半数以上の学生から「先生が叱っ
てくれて良かった」とございました。ただこれを書
いた本人は叱られていないんです。例えば私語がう
るさかった学生に私が注意した、その様子を見てい
た学生が「先生が叱ってくれるのが良かった」と書
いているのです。

これは、叱るということ自体にある意味、飢えて
いることを意味しているのではないかという感じが
するのです。それには二つのパターンがあるようで
して、叱ることを嫌がる親御さんがいるそうです。
もう一つは我が子が悪いことをしているという感覚
を持たない親御さんがいるそうなのです。

私が子どもの頃なんかは悪いことをいたしますと
父から往復ビンタ。「立って足を開け！ 歯を食いし
ばれ！」。怖いんですよ。今は家庭内であつても暴力
事件になりますから絶対にだめですけど、私の子ど

も時代は割と普通なことでした。親が怖い存在であつ
たのです。

そもそも悪さをするのはなぜでしょうか。やって
いいことか悪いことかがわからないので、結果的に
悪さをしてしまうのです。大人にとっては悪いこと
でも、やっている本人たちにとっては遊びの延長で
あり実験なのです。どこまでしたら叱られるかなど、
試しながらやっているのです。子どもというのは
楽しいことをしたいですから、往復ビンタのことは
忘れて悪さをしてしまう。そうしますと「お前！
ちよつとこい！」となる。こうしたことを繰り返して、
これはやつたら叱られる、とわかってくるのです。

悪さというのは、経験をしなくてはいけません。
いたずらとか悪さというのは、どこまでならやって
も大丈夫かを経験して覚えるということが、大事な
ことなのではないかと思うわけです。学生たちを見
ておきますと、こうした経験をしてこなかったよう
に思えてならないのです。

しばらく前にニュースになりましたが、アルバイ
ト先の飲食店でいたずら動画、不衛生・不適切動画
を撮って、ツイッターに投稿、拡散してしまう。そ
うしたことを、やっていいのか悪いのかの判断がつ

かないわけです。そのようなことは、子どもの頃に台所でいたずらをして、親に見つかって叱られて、やってはいけないことなんだと当たり前にわかっていてほしいと思うのです。

アルバイトができる年齢のものが、やって良いのか悪いのかの判断ができない。ツイッターに投稿して問題になった事件では、三十代の人もいたそうですから、だんだん叱られてこなかった世代が増えてきているのだと思います。

親が子どもを叱るという行為は、最初は命を守るということなんですね。たとえば冬に火鉢の上でヤカンが沸騰してる。小さい子でしたらそれ何かがわかりませんから、近寄っていつて手を伸ばすかも知れません。親はその姿を見たら、自分の元に引き寄せて「熱いところに近寄ってはだめでしょ！」と叱る。そうした事を繰り返すうちに、小さい子でも近寄ったら危ないということを覚えるのです。私たちは叱られることによって、悪さの質を体で覚えてくるのです。そうしてこないと、判断ができなくて、終いには刑法に触れるようなことになってしまいます。

仏教に「因果応報」という言葉がございます。「悪

い事をしたから当然の結果だよ」なんてことに使われがちですが、仏教的に申しますと、原因があつて、その報い、結果があるということです。悪い事ばかりではないのですよ。「善因善果」、善いことをすれば、善い結果がまつている。「悪因悪果」、悪いことをすれば、悪い結果がまつている。

善い行いをしたら、思いがけず褒められた。これが「善因善果」ですね。悪いことをしたら、叱られた。これが「悪因悪果」なんですね。この「善因善果」と「悪因悪果」を考えることが、大切なのではないかと思います。

子どもたちはもちろん、学生たちも見た目が大人びていても精神的には幼い考えの者もあります。私も微力ではありますが、学生たちに対して「善因善果」と「悪因悪果」を考えながら指導をしているわけがございます。どうか皆さまも、周りの人が善いことをしていたら褒めてあげる。悪いことをしていたら叱ってあげる。叱るのも愛でございます。また愛をもつて叱ることが大事ななと思うわけでございます。

これからお盆の法要が始まりますので、ここまでにしたいと思います。本日はご静聴ありがとうございました。

合掌

中野たから幼稚園

「ことりわくわくスペシャルデー」の報告

去る七月十六日（金）、「ことりわくわくスペシャルデー」が、「みんなで協力して活動を楽しむことを楽しむ」、「生活の流れの中で自分で考え行動する」を目標にとり行われました。

ふだんと異なり、午後一時半に体操着で登園。「おはようございます」の代わりに「こんにちわ」のごあいさつです。団結式では先生から、これからはじまるスペシャルでわくわくする予定を聞いて、期待に胸が膨らみます。園庭でスイカ割りや水遊びをし



坐禅を組むこどもたち



書院で軽食を「いただきます！」1組



長者閣で軽食を「いただきます！」2組



花火ナイヤガラの滝

て楽しんだあとは、ホールで「謎解きせんべい食い競争」、「バナナ氷鬼」、「ドッジボール」、「かくれんぼ」などをしてたくさん遊びました。夕方を迎えると、気持ちを切り替えてお寺に向かいます。いつものように靴を揃えて本堂に上がると、主事先生から坐蒲を受け取って坐禅です。しばらく静寂の時間を過ごしました。クラスごとに分かれて軽食タイム。手を合わせて「いただきます！」。最後は本日のメインイベント花火大会です。大迫力の花火に子どもたちから拍手と歓声が上がりました。十九時半、お迎えのご父母の姿を見つけると、嬉しそうにスペシャルデーの報告をする子どもたちでした。

山内短信

◎年始「初観音」のお知らせ



令和四年一月十八日（火）午後二時より、新年初の観音様の祈禱会を行います。
お札をお授けしますので、願文を添えてお申し込みください。
会費一五〇〇円

◎本堂前浸水性アスファルト広場を四年ぶり大改修



中野たから幼稚園児のか
けっこ、舞踊、組み体操の
安全を考え、より平面滑ら
かで白い表面に仕上げまし
た。周囲
の樹木に
透水性と
りやめを
少し心配
してます
が。

◎箱根植木(株)によるポプラの木の手入れ

九月中頃の五日間にわたり手を入れた、旧幼稚園舎脇にそびえるポプラの木、この木は戦後植樹されたもので樹高約三十メートル。写真の一番上で職人さんが二人作業しています。中程の幹に一人、地上に二人の体制で枝を伐採していただきました。その量なんと約二トン。伐採後は樹高も二十メートルほどに。すっかりコンパクトになりました。十一月現在、次の枝が出てきています。

